



ドイツ緑化事情について

ドイツは経済の先進国たけでなく、屋上緑化も分野でも環境先進国とも呼ばれています。ドイツでは1960年代から屋上緑化が普及し始め、現在屋上緑化は毎年1000万㎡増えていると言われています。これは日本の50060万㎡年に比べて20倍にも相当する量です。ドイツで緑化が普及している大きな理由として、成金制度。そして間接的には自治体で屋上緑化の義務を課しているのが大きいと思われまます。自然の緑が破壊されるのを補うために条例により屋上緑化が義務付けられている地域もあります。例えば、ドイツでは緑地を削って何かを建てる場合、建築法により補充しなければならないのです。補完の仕方は自由で、やはり屋上緑化という選択肢が第一に來ます。一例としては体育館を建設する際にライオン川平野の緑地が失われた分を、屋上にセダム類を植えることで補完しています。実はドイツの屋上緑化に期待される主な効果としては、景観ではなくて主に大雨の河川に流入する量を避けるための貯留槽を作ることです。その原因はドイツでは水のインフラの整備が整っており、公共下水道の容量が大雨など集中豪雨に対応できない為で

日本では下水のインフラがかなり進んでおり、雨が降ると貯留槽へ雨水をためて、河には直接流れ込まない仕組みになっていますが、ドイツではそういって設備がなく、一旦緑化の土部分に水をためる。つまりスポンジのような役目を緑化で担っているのです。一方、日本ではヒートアイランド現象の緩和や、環境問題の取り組みを重視した屋上緑化とされています。日本の薄層屋上緑化は、1996年にドイツからセダムを用いた緑化技術の導入をしたのが本格的な始まりと言われていますが、諸問題が未だ大きく、日本での屋上緑化普及はドイツに比べて遅れをとっています。しかし、地球温暖化、ヒートアイランドなど環境問題が深刻になっていくなかで緑化の重要性は否めません。日本は国土が狭い分、屋上に緑化を設置すると言ったことは、重要なテーマです。自然の緑が破壊されるのを補うために、条例を整備することにより、さらなる面積の屋上緑化が義務付けられることになれば、直接的な目的は違っても、緑化先進国「日本」が誕生するかも知れません。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で対応させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

大日化成株式会社岡山工場技術部所属の水田知典と申します。出身は兵庫県で高校までを過ごし、岡山市内の私立大学に入學し6年間一人暮らしをしていました。卒業後は津山市内の製紙会社に勤務していましたが、昨年4月に大日化成に転職し、現在に至ります。妻と2歳半にいます(男)。妻とパートナーを借り住んでいます。が、やんちゃな子供に夫婦そろって手を焼かされる毎日です。趣味は映画鑑賞で主にSFやアクション、コメディ映画を週に2〜3本程度観ています。最近上司や同期の誘いもありゴルフを始めました。終業後に練習場に通っていますがなかなか上達せず、ラウンドをしても時間がかなり同行の方に迷惑をかけるほどです。ゆいゆいはコンペにも参加させていたが、あと数年はかかりそうです。入社当時は建築用防水材料についてほとんど知識がなく、それまで耳にしたことがない用語もありました。日々業務に取り組み中ですが、理解が深まってきたように感じます。今は主な業務として製品改良などのチーム補助やSDS(安全データシート)の新規作成。



技術部 水田知典

DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803



次号も
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

映画で学ぶ 環境問題



アウトブレイク
(Outbreak)

監督：ウォルフガング・ペーターゼン

出演者：ダスティン・ホフマン

レネ・ルッツ

モーガン・フリーマン

上映：127分

公開：1995年

配給：ワーナー・ブラザーズ

2016年夏、世界中を歓喜と涙にそめたブラジル・リオのオリンピック・パラリンピック。各国選手の汗がまぶしく、多くの人の感動を呼びました。そのブラジルで開催前から不安視されていたのは「治安の悪化」と「シカ熱」の流行。特にシカ熱は、五輪観戦者が自国にウイルスを持ち帰ることで、世界的大流行をひきおこすのではないかと心配されてきました。

これら感染症問題とリンクする映画が、1995年ダスティン・ホフマン主演の「アウトブレイク」です。ダスティン扮する軍医サム・ダンニエルズは、アフリカ・ザイールで未知のウイルス「モーターバ」(映画上の架空のウイルス)による出血熱と遭遇し、「爆発的な感染」を抱いて「アウトブレイク」への危機感を抱いてアメリカ本国に帰国。流行前に阻止しようと東奔西走するものの、意外にも東奔西走を邪魔するのが軍の上層部！実は「モーターバ」は、30年前にアフリカで発見されたウイルスで、これを基にアメリカ軍では細菌兵器とそれを血清をすでに作り上げていたのです。

さて、感染症ウイルスがオウム真理教をはじめ、色々な団体で細菌兵器として研究されてきたことは周知の事実ですが、エボラやシカ熱のほか「HIV」や「アース・ジャカル」によって拡散されているという都市伝説があります。それは「ウイルス感染症は、まず有色人種の地域で発生し、拡散されるが、白人地域(主にアメリカ合衆国やヨーロッパ)に入ったとたんに収束する。これは、人口削減計画によって有色人種を削減し、白人を生き残らせる」とする優性論者の陰謀だ」というものです。さらに、「AIDS(HIV)は元々、中央アフリカを起源とした風土病が突然変

異によりヒトに感染したものの」と言われてきたが、実は、最初のAIDS認定患者は、アメリカのゲイの男性だったことも、この陰謀論が根強く語られる要因になっています。彼らによると、白人優性思想をもつゲイのエリアトが、有色人種だけでなくゲイや貧民層の白人も嫌い、彼らの街を消滅させるべく人体実験をおこなったとのこと。計画を知り、町を救おうとするダンニエルズが、部下とともに命をかけて戦うというストーリーです。

筆者はその「追捕」MANHUNTER制作班でも業務をしてきたのですが、大阪府警としてスタジオセットされたのは、大日化成・大阪本社目の目の先にある大阪府門真市古川橋の駅前ビル。あの福山雅治さんも、もちろんここで府警捜査員として、拳銃を腰に演技を本気で演じました。これだけの大作に、大日新聞が多少なりとも関わったことは本当に光栄なことですね！来年公開予定ですのでぜひご覧ください(後日詳細を追報いたします)

論者が言うには「次の感染症を見てみる！間違いない有色人種がゲイ、貧民層の地域で発生し、間違いない富裕白人層地域では収束するから。」とのこと。今のところ確かに、そのような傾向も見られるのは事実です。このような都市伝説を前提に見て頂く、21年前の作品にも関わらず、本作品がとて新鮮に見えたいと思いますので、ぜひご覧頂ければ幸いです。